

地域がん登録データを用いた男性乳がんの罹患の動向
 — 女性乳がんと比較して —
 Monitoring of Cancer Incidence in Japan (MCIJ) 2004

伊藤 秀美* 松尾 恵太郎 味木 和喜子
 祖父江 友孝 田中 英夫

男性乳がんは稀であることから、女性乳がんと比較して記述されることが多い。

性、1.48% (95% 信頼区間, 0.76% – 3.77%、女性、2.95% (2.66%–3.25%))。

本研究では、The Japan Cancer Surveillance Group が全国集計のために 31 地域がん登録から収集されたデータベース (MCIJ データベース) より、1993 年から 2004 年に診断された男女の乳がん症例を抽出し、診断時年齢、進行度、悪性度などを男女別に比較集計した。世界人口で調整した男女の乳がん年齢調整罹患率のトレンドについては、joinpoint 解析を用いて評価した。

本研究の示す乳がんに関する男女の疫学的特性の違いは、男女の乳がんの生物学的な特性が異なることを示唆するものである。

1993 年から 2004 年に診断された上皮内および浸潤乳がん症例は、合計 177,401 例で、MCIJ に参加している 31 地域がん登録管轄地域住民は 712,504,896 人年だった。男性乳がん症例は全体の 0.74% の 1308 例だった。男性の平均診断時年齢は、67.3 歳 (SE, 0.34) と、女性の 57.3 歳 (SE, 0.03) と高かった。男性乳がんの人口 10 万人あたりの年齢調整罹患率は 0.21 (SE, 0.001) と、女性 (31.38, SE, 0.008) に比べて 100 倍以上低かった。進行度や分化度に関しては、男女ともに類似していた。1993 年から 2004 年の年齢調整罹患率は、男性では期間を通じて変化がなかったのに対し、女性では期間を通じて増加傾向にあった。(年齢調整罹患率の年間変化率: 男

*愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿 1-1
